

# まちが学び舎 Letter

“ふるさとから豊かな生き方を学ぶ”「ふるさと・キャリア教育プロジェクト」

2022. 3. 10

担当：学びの場クリエイター 西村



「日本人」という言葉を初めて使ったのは坂本龍馬。  
150年後の今は世界がつながる時代。「地球人になろう！」



ビスケット1枚だけが配られた国グループのみんな。  
ある分で、どうにかみんなで等分しようとしています。



授業の感想にはたくさんの手があがり、それぞれの感じ方を発表することができました☆

2月17日（木）

## 佐賀小学校 5年生「SDGsの授業」

活動の中で出会った「感性」「表現」「探究心」をお伝えします。（『 』は子どもの声）

・先生は、海外経験豊富で SDGs の取り組みにとっても詳しい影野小学校の坂山英治校長先生。  
・まずは世界の子どもの写真から、少し「貧しさ」の様子を知った後、ビスケット（もちろん本物！）を使い「世界の不平等」を実感。楽しさの中に、みんなの複雑な表情も見えました。

・世界にあるお金持ちの国と貧しい国、日本はどのあたりだと思う？『真ん中』『もっと下』…みんなの感覚・予想とはちがいで、日本は最もお金持ちのグループ。（さて、どう感じる？）

・次は、四万十町のコンビニのお弁当から、世界について考えました。県内にある食材も含めほとんどが外国産。『社会科で輸入を習った』『日本は島国だから輸入が多いと思う』。世界とのつながりを実感しながら… 身近にもあるのに輸入したり、お金持ちの日本にはフードロスもいっぱい。「何かおかしくないかな？」

・そして、自分たちにできることを考える「SDGs日記」に挑戦。生活の中でできる「世界をよくすること」をそれぞれが考えて発表しました。みんなの感想です。

『SDGsについてどうやるかも分かった。目標達成しながらがんばりたい。』『前までは日本のことばかり気にしていたけど、今日からは地球や他の国のことも考えたい。』『深く知って自分にできることがあると分かったので、していきたい。』『ビスケットがおもしろかった。身近なところにも SDGs がある。』『他の国の子がお腹がすいて死んだりしている。気をつけたい。』『服だけでなく食料も送ったらいいと思う。』

・「世界と自分」をしっかりと感じ、考える時間になりました。「地球人」への第一歩ですね！



世界の富と国々のあり方を 10 枚のビスケットで表すと…



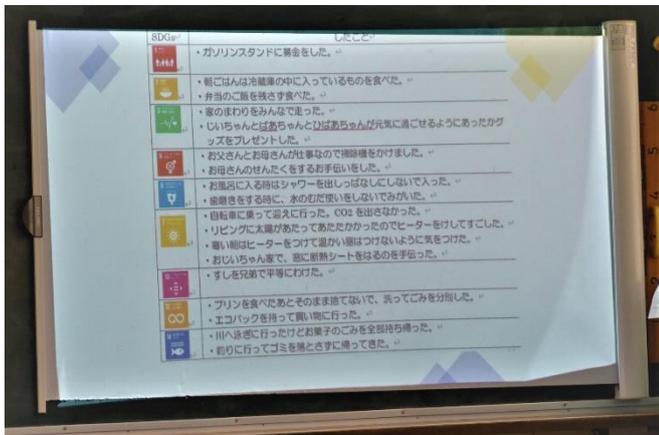
国民全員に 4 分の 1 枚しかない、最も貧しい国。



1 人に 1 袋 (2 枚入り) あるお金持ちの国。どんな感じ？



お弁当の食材 1 つずつについて、日本 / 外国の予想



影野小学校の子どもたちの SDGs 日記を参考に



SDGs の 17 の目標、それぞれの意味と生活をつなげて…



これまでにしたこと、これからできることを考える。



世界をよくすることは、佐賀をよくすることでもある。  
できることがいっぱいあるね！